

教育的ニーズの視点による「支援ガイド」

こんなことありますか？



- △ 子どものマイナス面ばかり気になって、どうしたらいいか分からない。
- △ 自立活動の指導で子どもから「なぜやるの？やりたくない。」と言われた。
- △ 保護者から合理的配慮の要望があったが、どう対応すればよいか。
- △ 「個別の教育支援計画」を作成しているが、評価が曖昧で引き継げない。
- △ やるべきことが多くあり、つながりや全体像が分からない。

解決のヒント



- 困っているのは「誰か」？を考える。
- 「なぜだろう？」と行動の意味や背景を考える。
- 「教育的ニーズ」の視点をふまえて、
子どもの実態をバランスよく把握する。
「この子はこうすればできる」(→ 支援者による「子ども理解」)
- 「本人目線」で、支援者と子どもとの対話をおし
子どもが自己理解をする。
「自分はこうすればできる」(→ 本人による「自己理解」)

このことは、

「△△という困難さがあっても、○○という指導、○○という支援があることで、○○できる」
つまり「こうすればできる」という「教育的ニーズ」の視点をふまえて評価することで、
子どもの実体像にせまることができる。

「個別の教育支援計画」の作成、修正がしやすくなり、役立つ情報を引き継ぐことができる。